

第3回アイヌアートモニュメント設置検討会議

1 第 1 回及び 2 回会議で出された主な意見

(1) コンセプトについて

■目的について

- ・アイヌ民族が今も存在し、これからみんなと共生していくのだということを分かってもらうことが一番大切
- ・子どもに対してメッセージを発信することも重要

■作品テーマのイメージについて

ア) モチーフ

○自然

- ・自然や動物の恵みに感謝・尊敬するというアイヌの自然観を表せるとよい
- ・循環という考えがあってもよい
- ・札幌の重みを感じ、大地につながるスピリットはよい

○儀礼具など

- ・イクパスイやイナウ、イヨマンテで使うイカヨプ（矢筒）やヘペライ（花矢）などを使ってもよい

○地域性のある文様

○色づけ、色合い

○ことば、ユーカラ

- ・アイヌは語りが大事、語りつないできた文化なので、アイヌのことばやユーカラを取り入れたり、音が流れてもよい

イ) 作品の見せ方

- ・未来に向かって眺めていくという観点からある程度抽象的な要素を入れ、見る人に対し考えさせるところがあってもいい
- ・芸術性の担保は必要
- ・動きなどの遊び心があってもいい
- ・アイヌの精神性を見せるため、インスタレーション（場所や空間を作品として体験する表現方法）するのもよい
- ・作った後、育てることが大事
- ・作品数によっても作品が変わってくる

(2) 素材について

- ・アイヌ民族が使ってきた伝統的素材がよい
- ・永続性は必ずしも必要ない

ア) 布

- ・布は多様なことばを生み出すのでよい
- ・長い時間をかけて布をつなぎ合わせるという方法もある

イ) 木

- ・素材が木でも耐久性はある
- ・樹脂加工で耐久性を持たせてはどうか
- ・木は彫る技術が必要

(3) 設置場所について

- ・周辺空間とのバランスや周辺整備は大事

ア) 相応しい場所

- ・多くの人が入り出る場所で、日常の中にあって目に入る場所がいい
- ・気軽に行ける場所の方がアイヌ文化との距離が縮まる

イ) その他

- ・都心部において、布などに描かれたアイヌ文様の美しさをアピールし、多くのアイヌ文様が展示されている交流センターを訪れてもらうという考え方はある
- ・おめでたいことがあると橋をライトアップしたり、小さな樹木を植えることが、やがてモニュメントとして成立することもある
- ・埋没しないように注意を惹かなければならない

(4) 制作者について

- ・アイヌ民族の作家は扱う素材に限られる
- ・経験問わずに制作に関わる人を募集すると、ただのお手伝いになってしまう。レベルの高い作品を制作するとしたら、時間をかけてトレーニングしデザインや制作に関わってもらうべき

(5) 制作手法について

- ・一人に任せるのではなく技術伝承など人材育成の視点が重要
- ・若者の意見を聞くべき
- ・大きなタイプとして、市民参加型と作家制作型が考えられる
- ・国際芸術祭との連携も考えられる

(6) 設置期間について

- ・時限的な設置もある
- ・残せばいいというものではない。砂澤ビッキ氏は磨り減っていくことも自然だとしている
- ・朽ちた後、次のものが生まれてくるという発想も必要
- ・循環、交代、つなぐという要素があってもよい